

# 京都府の地震活動

平成 29 年（2017） 3 月

第 30 卷 第 3 号

京都地方気象台

## 目 次

震央分布図、概況、断面図	・・・ 1～2
【地震一口メモ】「長周期地震動に関する情報のあり方について（長周期地震動に関する情報検討会平成 28 年度報告書）」の公表について	・・・ 3

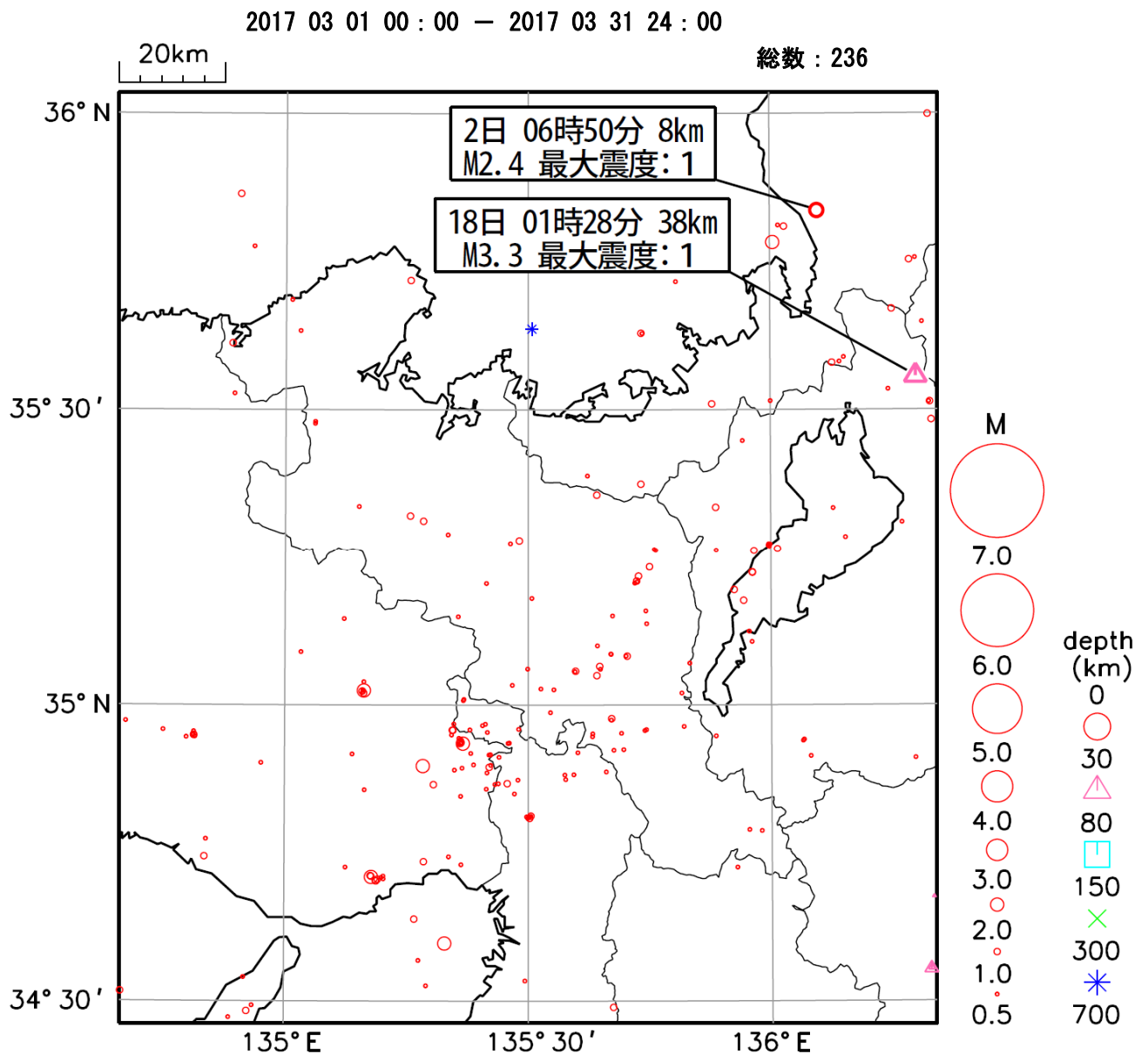
『京都府の地震活動』は、京都府及びその周辺の地震活動状況を解説するとともに、地震防災知識の普及に資するため、毎月刊行しています。

本誌に掲載した震源要素、震度データは、再調査された後、修正されることがあります。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを基に作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを利用しています。

震度データは、気象庁の震度計の観測データに併せて地方公共団体及び国立研究開発法人防災科学技術研究所から提供されたものを掲載しています。

## 震央分布図（マグニチュード0.5以上、深さ0～700km）



・震度1以上を観測した地震には、日時、マグニチュード（M）及び京都府内で震度を観測した地震については、京都府内最大震度を付記。

### 概況

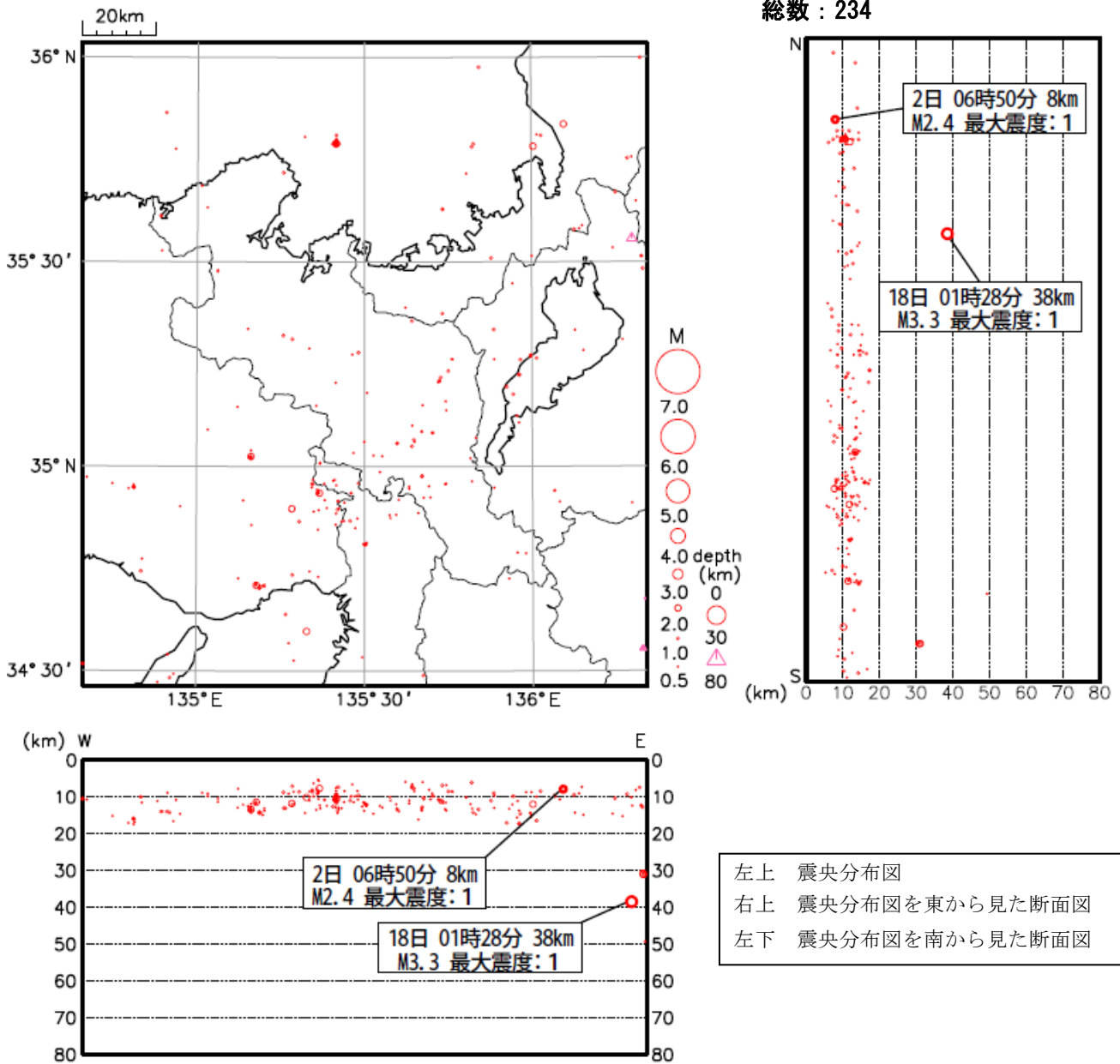
3月の震央分布図内で観測したマグニチュード2.0以上の地震は14回、震度1以上の揺れを観測した地震は2回でした（2月はそれぞれ12回、5回）。

京都府内で震度1以上の揺れを観測した地震はありませんでした（2月は3回）。

### 震央分布図、断面図（マグニチュード0.5以上、深さ0～80km）

2017 03 01 00:00 - 2017 03 31 24:00

総数：234



深さ数 km～約 20km に分布している地震は陸側のプレート内で発生した地震（地殻内地震）、深さ約 30km～約 60km に分布している地震は、沈み込むフィリピン海プレート内の地震です。

## 【地震一口メモ】

### 「長周期地震動に関する情報のあり方について（長周期地震動に関する情報検討会平成28年度報告書）」の公表について

大地震に伴って発生する長周期地震動は、高層ビル等を大きく揺らし、被害を発生させることがあります。平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震でも、東京都内や大阪市内の高層ビルで、低層階よりも高層階で揺れが大きくなり、長周期地震動による家具の転倒・移動等の被害があったことが確認されています。

気象庁では、高層ビル等を対象とする長周期地震動の予測技術、予測情報及び観測情報の提供に関して、「長周期地震動に関する情報検討会」を開催し、学識経験者等の協力を得て検討を進めてきました。今般、これらの検討の成果を「長周期地震動に関する情報のあり方について（長周期地震動に関する情報検討会平成28年度報告書）」として取りまとめて公表しました。

予測情報についての報告の概要は以下のとおりです。広く国民に警戒・注意を呼びかける予測情報と多様なニーズに対応する予測情報の必要性やあり方について報告しています。

長周期地震動に関する観測情報の報告を含めた全文については、気象庁ホームページの以下のアドレスをご覧ください。

[http://www.jma.go.jp/jma/press/1703/21a/tyoshuki\\_joho\\_hokoku\\_h28.html](http://www.jma.go.jp/jma/press/1703/21a/tyoshuki_joho_hokoku_h28.html)

#### <長周期地震動に関する予測情報についての概要>

##### 1. 長周期地震動に関する予測情報のあり方

###### （1）広く国民に警戒・注意を呼びかける予測情報

- ・近年の高層ビルや免震建物の増加による長周期地震動の影響を受ける人口の増加。
- ・長周期地震動では高層ビル等で家具類の転倒・移動等が発生し人命に係る重大な災害を引き起こすおそれ。
- ・長周期地震動階級の予測技術の実用化。

⇒広く国民に警戒・注意を呼びかける予測情報は気象庁が担うべき。

###### （2）多様なニーズに対応する予測情報

- ・高層ビル等在館者への情報提供、高所作業の安全確保、エレベーター等の機器制御など多様なニーズがある。
- ・個々の高層ビル等の揺れ方は地盤の状況、建物の構造、発生した地震動の周期などにより異なる。

⇒個々の高層ビル等の多様なニーズに対応する予測情報は民間の役割が重要。

##### 2. 長周期地震動に関する予測情報の具体的な提供方法等

###### （1）広く国民に警戒・注意を呼びかける予測情報

- ・安全な場所で揺れに備えるという行動は長周期地震動でも緊急地震速報と同じ。
- ・発表基準は、予測精度を加味し長周期地震動階級3以上の場合とすべき。

⇒現行の緊急地震速報（警報）を発表する基準に長周期地震動階級の予測値を追加。

###### （2）多様なニーズに対応する予測情報

- ・予報事業者等は、気象庁から提供する予報資料を基に予測情報を作成。
- ・予測技術、利活用策、利活用にあたっての留意事項などの検討・検証が必要。

⇒「多様なニーズに対応する予測情報検討ワーキンググループ」を設置し検討。